

令和6年度袋井高校第3回学校運営協議会【概要】

日 時： 令和7年2月13日(木) 午後1時30分～午後4時20分

場 所： 静岡県立袋井高等学校 視聴覚室 楨緑館

参加者： 委員4名(欠席3名)、校長、副校長、教頭

主な内容：

1,「総合探究講座」成果発表会 説明及び参観

2, 協議①(成果発表会を見ての感想及び意見)

- ・自主フィールドワークの一環として「健康寿命とお茶」の班とディスカッションをした。テーマにいい意味でこだわりがなく、発想の切り替えが柔軟にできている。気づきを得て変化させていくところが生徒たちの探究活動のいいところである。班同士横のつながりで広がる様子も見られた。
- ・「非常食常備」の班を見たが、想定される範囲のアイデアだった点は残念であった。コスパやタイパという世代が得意な分野で切り込んでくれればよかったが。「食品ロス」班ももう少し切り口を変えたり、深掘りしたりできればよい。「運動不足な社会人」をテーマにした班も、自由な発想や変化が欲しい。
- ・中間発表よりもまとめ方や発表がうまくなっているが、期待した「よい」範囲の答えを超えない。だが、デザイン思考のサイクルはうまく回っていると思う。
- ・「外で遊ぶ場所を提供する方法」はスライドもうまいし、メリットがうまくまとまっていた。自分の体験に基づいた出発点がよいのだと思う。

一方、そうでない班では、表面的なことについて、聞いてきたことやお利口な答えが並んでいるだけの発表もまだまだ多い。例えば、「若者が結婚したいけどどうしたら」という班も、コミュニケーション能力に着目しても、笑顔を作ることで止まってしまう、本心を伝えることには行きつかない。

- ・「学校の裏庭を活用する」という班も同様で、ベンチを置いたら話や食事ができるまでは発想できるが、もっと発想を転換して「庭で授業をしたら？」などのやんちゃなアイデアがない。
- ・あるところでおさまってしまっている傾向が確かにあるが、今の高校生は心理的安全性がない生活をしているという表れでもある。周りの目を相当気にしながら生きている。
- ・小学生もそのようだ。発表したあとに「いいですか」と聞き周囲に「いいです」と言わせるのを見たことがある。みんなが同意してくれてやっと安心できるようになっている。アメリカの教室では自分の言っていることが合っているか間違っているかに関わらず意見を言う。アメリカの教室は正解が1つでない空間だが、日本では同調圧力が強い。

→とんがった自分を見せることや奇想天外なことを言うことがリスクになっているが、探究だけが自分の変なアイデアを出せる時間になるようにデザインしている。しかし、小学校からの教室文化やネット社会の影響は大きい。まだまだ幼い発表内容や結論は多いが、これがいろいろな現状を変える方法だと思って実践している。

- ・企業で似たようなことを学ぶ。生徒たちに起業家精神を育てたい。起業家になることはリスクに満ちているが、生徒たちには必要なことである。

→小中高でこのように育ててきた生徒たちは、大学ではどうしているか。

- ・学生もベンチャーをよくやっている。ある大学の卒業生の中小企業就職率は3割で、研究の手足としての学生を育てている一面がある。理工科大学は、中小企業の技術者を育てることが創立の理念である。エンジニアとしての技術をマネジメントできる力を育てようとしている。スタートアップなどは起業しなくてもそういうマインドを持っていることが大切と考える。

3, 協議②(学校関係者評価)

→自己評価の理由などを説明した。生徒アンケートの回答では、「勉強時間が足りない」「忙しい」「部活との両立ができていない」などの傾向が見えるが、いずれもスマホが大きな要因である。授業での発表ができていないという自己分析も見られ、心理的安全性が確保できていない。

危機管理について、マニュアルを読み込む機会を作っていないことも一因となり、浸透していない。

創立後50年を経過した校舎のあちこちに修繕の必要がある。

職員アンケートから、必要に応じた休暇が取れていない傾向が見える。

・自宅学習について、一律に2時間とか量の問題ではなく、質的な分析も必要なのではないか。自分のテスト結果等に基づいて個別の学習計画を作ってそれに基づいて評価するのはどうか。また、学習について具体的に記述してもらうのはどうか。地歴公民科からの課題として記載されている「生徒の発言機会を作る」というのは大切なことだと思う。

・進路を決めるのは難しいので、決まっている生徒とそうでない生徒がいる。「何%が学部を決められた」という結果ではなくプロセスを認めてやる必要がある。

家庭学習について、時間のことばかりだが、睡眠も大事という指導も大切。

各教科よく考え、よい目標や課題を持っている。

探究については、答えがないし、自分で求め、プロセス楽しんでほしい。

施設について、政治家は高校無償化を議論しているが、公立高校に設備投資をしてほしい。

国際交流について、外国人に声掛けられるコミュカが出发点ではないか。

防災については、全員に一度に教えなければならないではなく、一部に伝達することで、その一部から広げていくということも可能ではないか。

保護者地域に探究学習の重要性を伝えたい

・進路決定について、生徒アンケートの回答が2年で下がるのはどういうことか。

部活と学習の両立がCなのは、仕方ないと思う。一方、危機管理は有事の際には不徹底では済まないことなので、90%の認知度があつた方がいい。

・2016年の夏、野球部が県大会で準優勝した際は、文武両道を地で行く学校を応援する気持ちで地元が熱狂した。約10年が経過しこの精神は失われてしまったのか。これを取り戻すためには、顧問の呼びかけだけでいいのか。

→進路決定率や学習時間が2年で減るのは中だるみと部活の中心メンバーとなっているからと考えられる。中学校の部活が地域移行し、これから様変わりする。これまでの中学の部活動の支えがないとなると、高校から部活をするということがどんどん難しくなる。

→探究を見守り、支援する制度として、学校運営協議会の委員を来年もお願いできればと願っている。